

9月22日(日) 賛助会員発表第4室(1313)

英英辞書への誘い：  
私の方法

Open and Shut Cases: Using a Monolingual Dictionary

山陽学園大学 田邊祐司

キーワード 英英辞書指導、機能と使用の落差、橋渡しガイダンス、伝わりにくくなった情報、指導実例

最近の辞書の充実ぶりには、目を見張らされるものがある。EFL User-friendly の立場から、各出版社とも工夫を凝らし、コンピューターを駆使し、次々と新機軸を打ち出してきている。特に、近年相次いで出版・改訂された4種類の英英辞書は、どれも甲乙つけがたい魅力を備え、学生のための辞書選択は英語教師の嬉しい悩みともなっている。

ところが、こうした辞書編纂側の努力、充実ぶりに比べ、大きく立ち遅れているのが学習者が辞書を手にしてからの教師によるケアである。果たして、学習者が辞書を英語学習の一助とするようになるまでの手当は行われているのだろうか。昨今の辞書機能の充実ぶりとそれを使う側との関係は、ちょうど多機能の電子機器の性能を十分に生かせきれない user との関係に似ている。辞書を使う側が機能に負けている、そんなアンバランスな関係である。そういう意味でも辞書指導に関する議論は、辞書の記述の充実以上に、もっと煮詰められる必要がある。

確かに最近の辞書には、詳細な使い方のページが盛り込まれ、また、その道の権威によるパンフレットまで添えられている。しかし、それらを自発的に読み、辞書を活用できるようになる学習者は多くはあるまい。何らかの教育的指導が不可欠である。特に英和辞書から英英辞書への移行をはかる場合には、適切な橋渡しガイダンスが行われるべきである。そうでなければ、辞書編纂者が心血を注いだものが、机の隅で一室ほこりをかぶってしまうことにもなる。

かつて POD, COD などわが国の英語教育界を席卷していた時代には、情報は限られていたものの、辞書の引き方、またその楽しみ方などは、水が高所から低所へと流れるごとく、教師から学生に自然に伝わっていったものであった。ところがいつのまにかこの流れが滞ってしまった。辞書にまつわる「良き昔話」が若い世代には伝わりにくくなった。その一方で、辞書に盛り込まれる情報は増大しつづけている。

以上の問題点を踏まえ、本発表では、ホットな英英辞書戦争の火付け役ともなった *Cambridge International Dictionary of English* (1995) を素材に、大学生1年生を対象とした英英辞書指導の実例を紹介するものである。限られた時間なので、ここでは主に以下のような4点を中心に進める予定でいる。私の場合はこうしているといった積極的な情報交換の場となればと考えている。

1. 英英辞書への誘い 動機づけあれこれ
2. 英英辞書の面白さ 実体験あれこれ
3. 英英辞書を生かす 活用法あれこれ
4. まとめ

「英英辞書への誘い：私の方法」

主なポイント (予定)

- 溢れんばかりの情報とモノ ○機能満載の辞書と使いこなせない学習者
- かつては伝わっていた知識 ○学習・研究のハード面に関する議論の必要性
- 大学・社会人の指導現場からの提言

### 1. A) 認知的アプローチ

- 辞書の全体像
  - 辞書分類 英英辞書の位置づけ, etc
- 辞書発達概略史
- これまでの辞書に対するイメージを修正する

### B) 情緒的アプローチ

- 辞書偉人伝 Anecdoteで鼓舞させる
  - Fowler兄弟の辞書, MurrayとOED, 河村重治郎の辞書, 「言葉の海へ」, '菊さん'の英和辞典, ビデオテープetc

- C) ○辞書作りの裏話 うまく使わなければという気持ちをおこさせる
  - 「切り張り」, カード, 語法ノート, 短冊etc

### 2. A) 認知的アプローチ

- 辞書使用のための基本事項
- 辞書は読むもの
- 辞書の限界

### B) 比較アプローチ 英和と英英の守備範囲

- 既知語・身の回りの言葉から入る
- 和製英語で遊ぶ
- 基本動詞は面白い
- 前置詞で英語の発想をつかむ
- 擬音語・擬声語で日英比較
- シンボル把握で訳語とのずれを体感する
- 類義語間のニュアンスの違いを納得する

### C) タスク・アプローチ

- 日英を探させる
- お宝例文探し, etc

### 3. ○英英辞書を活かす方策

### 4. ○post-publicationのケア ○英英辞書の出番を知ること

9月22日(日) 賛助会員発表第4室(1313)

## 参考文献

- 石山輝夫(1984)『英語辞書活用術』東京：講談社.
- 伊東勇太郎(1930)『文検受験用 英語科研究者のために』東京：大同館.
- 岩崎研究会編(1989)『英語辞書の比較と分析 第4集』東京：研究社出版.
- .(1981)『英語辞書の比較と分析 第2集』東京：研究社出版.
- 磐崎弘貞(1995)『続・英英辞典活用マニュアル』東京：大修館書店.
- .(1995)「CIDE編集室を訪ねて」『言語』Vol.24, No.6.:84-91.
- .(1990)『英英辞典活用マニュアル』東京：大修館書店.
- 鶴沢伸雄(1983)『英語辞書の周辺』東京：三省堂.
- 笠島準一(1986)『英語の辞書を使いこなす』東京：講談社.
- 金子稔(1991)『現代英語・語法ノート』東京：教育出版.
- 語学教育研究所編(1988)『英語指導技術再検討』東京：大修館書店.
- 小島義郎(1989)『英語辞書物語(上)』東京：ELEC.
- .(1988)『日本語の意味。英語の意味』東京：南雲堂.
- .(1987)『英語辞書の使い方選び方』東京：実業之日本社.
- .(1984)『英語辞書学入門』東京：三省堂.
- 佐藤弘(1982)『英語辞書の実際』東京：八潮出版社.
- 三省堂編修所編(1993)『辞書のはなし』東京：三省堂.
- 惣郷正明(1978)『辞書漫歩』東京：朝日イブニング社.
- 田島伸悟(1994)『英語名人 河村重治郎 新版』東京：三省堂.
- 田中菊雄(1992)『英語研究者のために』東京：講談社.
- .(1987)『現代読書法』東京：講談社.
- 外山滋比古(1983)『英語辞書の使い方』東京：岩波書店.
- 中沢新一監修(1992)『私が愛用する辞書・事典・図鑑』東京：一季出版.
- 早川勇(1990)『英語辞書へのプロムナード』東京：三友社.
- 松本安弘・松本アイリン(1996)『英語の名教授』東京：丸善.